

一般社団法人日本人間工学会第78回理事会 議事録

1.開催日:2025年9月19日(金) 17:00~19:11

2.開催場所:オンライン Zoom 開催

3.出席理事:<敬称略>

・理事会構成員(27名・定足数14名以上)

(理事):鳥居塚崇(理事長),中西美和(副理事長),加藤麻樹(学術),河合隆史(総務),國澤尚子(表彰),齋藤誠二(若手支援),下村義弘(広報),申紅仙(総務),能登裕子(学術),松崎一平(普及),松田文子(広報),村木里志(編集),持丸正明(国際・戦略),八木佳子(国際),横井元治(財務),吉村健志(財務),和田一成(普及)

[17名]

(理事兼支部長):松田礼(関東),横山清子(東海・第67回大会),有馬正和(関西),石原恵子(中国・四国),小崎智照(九州・沖縄)

[5名]

[計:22名]

(欠席者):石橋圭太(若手支援),井出有紀子(企業活動),小林大二(北海道),高橋信(東北),横山詔常(企業活動)

・監事:赤松幹之,臼井伸之介

・オブザーバー:榎原毅(認定機構・国際誌・第66回大会),佐藤洋(JENC・標準化推進),吉武良治(表彰)

(欠席オブザーバー)小谷賢太郎(第10期選挙管理)

・事務局:西原彩,米倉裕美

※全員オンライン会議出席者

4.議事概要

定足数14名を超える22名の理事の出席を得て理事会が成立したことを確認した後,定款に従い理事長を議長として議事を進行した。

【審議事項】

(1)第1号議案 2027年第68回大会について(理事長)

鳥居塚理事長より,2027年の第68回大会長について,中西美和副理事長の推挙があり,承認された。

(2)第2号議案 大会支援システム Confit の複数年契約について

横山第67回大会長より,近年の大会で継続して利用している大会支援システム Confit について,運営会社の(株)アトラスより利用料が割引になる複数年契約の提案があった旨説明があり,審議の上,複数年契約を行うことを確認した。今回は3年契約とし,3年後には総務と財務(担当は未定)が契約を継続するか,他システムへ変える必要があるかを,利用した大会長の意見を聞いて検討した上で,理事会にて確認を行う。

複数年契約のメリットとして,前大会の情報を引き継げることで大会準備作業が大きく軽減されること,参加者にとっても毎年同じだと利便性が良い(同じIDを利用できる)等がある。

榎原第66回大会長より、大会準備は作業が多岐に渡るので、参加登録システムを理事会で決めてあると助かるとの意見があった。

(3) 第3号議案 研究部会の更新要件の改定について(理事長)

加藤学術委員長より、2023年に改定した研究部会の更新要件について、問い合わせは多いが、セミナー開催や論文投稿が進んでいない等の問題があり、改めて規程を見直したところ目的の項目がなく、本改訂により部会設置の「目的」を明確化し、活動内容を広げ、論文投稿も進むようにしたい旨説明があった。審議の上、次回理事会での継続審議となった。主に、第6条(報告と研究成果発表)の記載を編集委員会にも相談の上、見直す。

村木編集委員長より、部会員が個人の研究として論文を投稿する場合には、部会活動を通して、その研究が発展したことを付記等に記載してあれば、研究部会としての論文投稿としている旨、説明があった。

部会が行っている様々な活動が学会誌に繋がっていないことを残念に思っていること、更新要件は2023年にスタートしたばかりなので、もう少し様子を見てほしいとの話があった。

他の意見など

- ・若手研究者の育成を、部会には積極的にお願いしたい。
- ・部会活動の活性化を期待している。活性化したら、活動費の増額も検討してほしい。
- ・組織としての論文投稿と個人としての論文投稿、両方を推進してほしい。部会や理事会からの提言は社会的なインパクトが大きい。部会として5年間活動した内容をまとめて、社会発信してほしい。
- ・研究部会の皆さんに、分かりやすく伝えることが必要。
- ・部会に着想を得た”個人”の投稿論文を本要件として認めるのであれば、関連の国際誌への投稿も要件として認めてしかるべきではないか。
- ・部会としての投稿とは別に、最終の活動年に、部会長が活動報告(リサーチ・イシュー等)を投稿すると良いのでは。

(4) 第4号議案 次世代教育会員およびジュニア会員設置の提案

松崎普及委員長より、人間工学の裾野を広げるために、次世代教育会員(小中高の先生)とジュニア会員(小中高生)の枠を新設し、早期から人間工学に関わってもらう制度を作りたいという提案があった。審議の上、新設する方針で進めることとなった。制度については普及委員会を中心に、制度(定款・規程)については総務を含めて検討を行う。

意見など

- ・関西支部では高校生を対象にしたイベントを行っており、小中学生から人間工学に関わってもらうことが大事で支部としても協力したい。小中学生への教育は保護者への関わりも大事。
- ・発表をする場を学会が提供することはすごく大事。
- ・先行事例を集めて、これからJESが取り組む内容を明示してもらえると進めやすい。

【報告事項】

(1) 総務報告

(1-1) 申総務理事が、2025年定時社員総会議事録と第77回理事会議事録について報告した。

(1-2) 会勢報告

2025 年 8 月末現在, 会員数 1,226 名 (+24 名), 賛助会員 22 社 24 口 (+2 社 3 口) について報告. 4 年未納にて退会予定者 10 名について確認した.

(1-3) メールによる審議等の結果 3 件について報告.

(1-4) 協賛等の依頼 20 件について報告.

(2) 財務報告

(2-1) 横井財務理事より, 8 月度収支計算書について概ね例年通りの旨報告があった.

(2-2) 年会費徴収方法を郵送からメールに変更したことで, 例年より 5%ほど会費収入が少ない旨, 報告があった. 会費納入システムの導入を検討しており, 他学会の利用状況など情報があれば教えてほしい旨お願いがあった.

(3) 第67回大会(2026年 5 月23~24 日:名古屋市立大学)準備状況報告

横山第67回大会長より, 来年の第 67 回大会のテーマが「Beyond SDGs—持続可能な社会を支える人間工学」となったこと, 今後 Confit との複数年契約を進めることの報告があった.

(4) 担当・委員会・支部報告

(4-1) 広報委員会

松田委員長より, パンフレットの刷新を進めていること, 会員専用サイトのプロフィール更新をニュースレターで呼び掛けたこと等の報告があった. 各支部大会での人間工学GPDBの発表準備も進めている. 今後の大会で, 人間工学GP賞を受賞した会社が企業展示を行う提案を予定している.

(4-2) 編集委員会

村木委員長より, 学会誌発行状況, 新たに 11 名査読委員に加わったこと, 9 月 1 日より Editorial Manager の運用を開始したことの報告があった. これまでのシステムとの変更点については学会誌 61 巻 4 号のエディトリアルに掲載している.

(4-3) 国際協力委員会

持丸委員長より, 第 66 回大会にて ACED 会合を行ったこと, 11 月に北京にて IEA council meeting が行われる旨, 報告があった. 持丸委員長が IEA Advisory Group on Standardization の chair に就任したこと, 今後の活動予定について説明があった. 次回の IEA は 2027 年ロンドンで開催.

(4-4) ISO/TC159 国内対策委員会

佐藤委員長より, 継続して SC4 の対応と, 日本提案のサービスエルゴノミクスを進めている旨, 報告があった.

(4-5) 表彰委員会

吉武委員長より, 第 66 回大会時の優秀研究発表奨励賞の受賞者について報告があった. 最優秀賞 1 名, 優秀賞 4 名. 例年, 表彰式は受賞者が所属する支部大会で実施をしており, 各支部大会での表彰をお願いした.

(4-6) 学術委員会

加藤委員長と能登副委員長より, 審議事項について継続して検討を進める旨, 報告があった.

(4-7) 人間工学専門家認定機構

榎原機構長より, 9 月 6 日に専門家認定試験を実施したこと, 準とプラクティショナーも含め, 受験者数が増加している旨, 報告があった. レピュテーション戦略の観点から, 資格制度の在り方の議論を開始

しており、ガイドブックの改定や資格のスコープ作成等を進めている。

(4-8) 若手支援委員会

齋藤副委員長より、第 66 回大会で認定機構と共催で開催した若手向けワークショップについて、次回大会でも開催を検討している旨、報告があった。

(4-9) 企業活動推進委員会

今回はなし

(4-10) 国際誌検討委員会

榎原委員長より、学会誌が Editorial Manager の運用を開始したことを受け、ハイブリッドジャーナルとして活用することを今後検討したい旨、報告があった。

(4-11) 普及委員会

和田副委員長より、読書会を企画中で、ぜひご参加いただきたい旨、説明があった。

(4-12) 戦略・将来構想委員会

持丸委員長より、第66回大会では内閣府の方と連携してセッションを開催したこと、今後も省庁関係への働きかけを進めていきたい旨、説明があった。

(4-13) PSE 委員会

今回はなし。

(4-14) 利益相反・倫理委員会

鳥居塚理事長より、大須賀委員長を中心に活動を継続している旨、報告があった。

(4-15) 人間工学研究標準化推進委員会

佐藤委員長より、標準化関連の活動および JENC の活動内容を広報していくことを検討中の旨、報告があった。

(4-16) 第 10 期選挙管理委員会

事務局西原より、選挙管理委員を各支部より選出し、10 月代議員選挙に向け活動を開始した旨、代理報告があった。各支部長に 2026 年 1 月 12 日までに次期支部長を選出してほしい旨お願いがあった。

(5) プロジェクト報告

・AMED

榎原担当より、AMED の成果報告ページが完成しているので、関連学会には、成果報告ページのバナーを張っていただけるように依頼予定で、JES での対応もお願いしたい旨、説明があった。

・厚労省科研

榎原担当より、活動は順調に進んでおり、鳥居塚理事長が議長として全体会議に出席している旨、報告があった。10 月から研究がスタートし、全国大会での報告を予定している。

・人間工学事典発刊

榎原副委員長より、第66回大会時のイブニングセッションにて活発な議論を行った旨、報告があった。

・こども ICT

吉武委員より、第66回大会時にシンポジウムを開催し、議論を進めている旨報告があった。

(6) 支部報告

(6-1) 北海道支部

支部大会を9月18日～19日に公立千歳科学技術大学にて開催。

(6-2) 東北支部

今回はなし。

(6-3) 関東支部

松田支部長より、12月14日(日)に第55回関東支部大会・第31回卒業研究発表会を芝浦工業大学にて開催する旨、報告があった。

(6-4) 東海支部

横山支部長より、11月1日(土)に東海支部2025年研究大会を青木宏文大会長のもと、名古屋大学にて開催する旨、報告があった。演題締め切りを延長する。

(6-5) 関西支部

有馬支部長より、12月13日(土)に2025年度関西支部大会開催し、高校生の発表を行う旨、報告があった。8月25日に関西デジタルヒューマン懇話会の交流会を、9月10日に見学会を開催した。

(6-6) 中国・四国支部

石原支部長より、12月6日(土)に中国・四国支部第56回大会を齋藤誠二大会長のもと、岡山県立大学にて開催する旨、報告があった。2026年3月27日に講演会・小シンポジウムを開催する。

(6-7) 九州・沖縄支部

小崎支部長より、11月29日(土)午後に九州・沖縄支部第46回大会をTKP博多駅にて開催する旨、報告があった。

(7) その他

今後の理事会・総会日程について(総務)

鳥居塚理事長より、次回第79回理事会は2025年12月頃、第80回理事会は2026年2月～3月頃に開催予定の旨、説明があった。

(8) 閉会

以上の議事を終え、19時11分に閉会した。

上記の決議を明確にするため、代表理事、監事がこれに記名押印する。

2025年9月19日

代 表 理 事

鳥 居 塚 崇 ㊞

監 事

赤 松 幹 之 ㊞

監 事

白 井 伸 之 介 ㊞